報徳@なう
３月号

# 定期的な食品配布で生活困窮予防!

## 食べ物がない人への「対処」から、そうならないための「予防」へ

「食べる物がないんです」昨年から悲痛な連絡がたびたび当センターに入るようになりました。その度に、「役所には相談しましたか？」「社協には相談しましたか？」と尋ねますが、「役所のどこに相談すればいいんですか？」「社協って何ですか？」と言われることがあります。福祉に携わっていると当たり前のことが、コロナ前まで普通に暮らしていた人にとっては当たり前ではないのです。「役所だと例えば、福祉課とか…」「社協っていうのは、社会福祉協議会といってですね…」と説明して、どんな相談ができるのか等を話してから「では、どういった食品がいま必要ですか？」と、ようやくフードバンクからの質問に入れるのです。コロナ禍が長引き、こうした「対処療法」はいよいよ手が回らなくなってきたので、定期的に食品を配布する「予防」に力をいれないといけない状況です。【文責・編集部】


↑小田原の子ども食堂「お結びころりん」での食品配布の様子。


↑食品配布されたその晩に「さっそく食べています」と写真を送ってくれる方も増えてきました。

●報徳食品支援センターニュースレター「報徳@なう」
Vol.02 / No.003
●発行所
ＮＰＯ法人 報徳食品支援センター
●発行人：田嶋　享
●編集人：本岡俊郎
●編　集：千葉哲也
●電　話：０７０－８５５５-２１８９
http://小田原報徳フードバンク.com

## あれから十年…
## 東日本大震災を振り返る

あの時、私は「セカンドハーベスト名古屋」で活動していました。４月初めにハイエースに支援の食品を満載して名古屋から宮城県山元町に運びました。そこで今後の支援方法を模索して、避難所から仮設住宅に移る被災者の方のために、米５kgと調味料など仮設で暮らしを始めるのに必要な食品を詰め合わせた段ボール箱を送る事に決めました。仮設には、冷蔵庫や電気釜などは備えられてましたが、食事の材料は自分で用意します。名前は「ごはん応援箱」です。ＮＨＫ名古屋放送局のニュース番組にも出演させていただき、「ごはん応援箱」募集を呼びかけました。多くの方々のおかげで、山元町内の全ての仮設住宅や自宅避難の方に送る事ができました。しばらくして届いたお礼のハガキに書かれていた文章を忘れる事ができません。

「『ごはん応援箱』をありがとうございました。開けた瞬間に、昔母が就職先に送ってくれた小包を開けた時の事を思い出しました。外は寒いですが、今日の私の心は温かいです」

【副理事長　本岡俊郎】




## ２月の主な食品配布実績

【１】０４日：箱根はまゆう会・箱根湯本　２６世帯
↑生協の野菜をメインとした食品配布
【２】０７日：箱根はまゆう会・芦ノ湖　２４世帯
【３】０９日：カーサ・デ・アミーゴス（三島）
【４】２０日：小田原市・お結びころりん　７０人分
【５】２３日：箱根はまゆう会・箱根湯本　１５世帯
【６】２７日：箱根はまゆう会・芦ノ湖　２４世帯


↑ひとり親家庭向けに、三浦キャベツをソースに使ったハンバーグが提供されました。

報徳食品支援センター新電話番号
おとな　おやこ　GoGo　フードバンク
**070-8555-2189**
http://小田原報徳フードバンク.com/問い合わせ/


↑まだまだやりたい事は尽きない。

【理事長より】

皆様のご協力のお陰で二市八町の皆さん、それに三島、平塚にも配布をしています。現在一年間で四十二トンの食品が、メーカーさんや卸業者の方から入荷しています。特に小田原母子寡婦福祉会八十名、開成町母子寡婦福祉会二十五名、箱根町三か所で五十名くらいの母子家庭の方、その他に地域の社協や子ども食堂などに配布をしています。最近、コロナ禍の問題で、支援希望の本人が電話やメールで連絡して直接取りに来る方もいます。

今日または明日に食べる食品がないという方も大勢います。もし、報徳食品支援センターが無い場合はどうでしょうか。きっと何かの事件に結び付くのではないでしょうか。

「譲って損なく、奪って益なし」尊徳翁の名言です。私は、コロナ禍が早く終息を願う一人ですが、経済、環境はどのようになるでしょうか？　最近の新聞、テレビを見ると、低額所得者は、年収二００万円以下の方が四十％超と聞きます。特に二市八町には観光事業で働いている方が多く、子育てに大変だと思います。

先月、母子家庭の方々約八十名に食品（一人に約二十kg）を配布しました。その時に十七歳の男子高校生がお母さんと一緒に来て、アンケートに答えてくれました。「美味しいものをたくさんいただきありがとうございました。次は、僕が皆さんに差し上げる立場になります」と大変うれしいアンケートでした。

本当にこれからの時代は、「おたがいが助け合い、明るい街をつくろうよ」私は今こそ原点だと思います。小田原市の人口は、令和二年十二月十四日現在十八万八九二三人（神静民報社）です。守屋市長は、二０三０年には輝く小田原、世界に誇れる小田原、世界中の人が小田原に住みたいという街にしようと全力投球しています。そこで私は、企業の誘致、農業の活性化、福祉の充実、教育、健康づくり、防災等でサークルを作り、将来は足柄平野活性化協会（仮）を作りたいと思います。

【理事長・田嶋　享】
携帯：090-2542-2000